住友化学株式会社

安全データシート

1　製品及び会社情報

製品名: 側条パダンオリゼメート顆粒水和剤　(ｶﾙﾀｯﾌﾟ･ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ水和剤)

使用上の制限: 農薬

供給元:

会社名: 住友化学株式会社

担当部署: アグロ事業部　お客様相談室
〒104-8260
東京都中央区新川２丁目２７番１号

電話番号: 0570-058-669

2　危険有害性の要約

ＧＨＳ分類:

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性/引火性ガス	分類対象外
	可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性/酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	急性毒性 (経皮)	区分外
	急性毒性 (吸入－ガス)	分類対象外
	急性毒性 (吸入－蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入－粉じん及びミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 1
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 1 (中枢神経系) 区分 2 (呼吸器系)
	特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 2 (呼吸器系，腎臓)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分 1
	水生環境有害性（長期間）	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示:

注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

H302: 飲み込むと有害
H314: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H350: 発がんのおそれ
H370: 中枢神経系の障害
H371: 呼吸器系の障害のおそれ
H373: 長期にわたる、または反復暴露による呼吸器系，腎臓の障害のおそれ
H400: 水生生物に非常に強い毒性
H410: 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策:

P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202: すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P270: この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P273: 環境への放出を避けること。
P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P264: 取扱後は顔と手をよく洗うこと。
P281: 指定された個人用保護具を使用すること。
P280: 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置:

P391: 漏出物を回収すること。
P330: 口をすすぐこと。
P303+P361+P353: 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P305+P351+P338: 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P304+P340: 吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P310: 直ちに医師に連絡すること。
P333+P313: 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
P308+P313: 暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
P321: 特別な処置が必要である（「4. 応急措置」参照）。
P363: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管:

P405: 施錠して保管すること。

廃棄: P501: 国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名または一般名	官報公示整理番号		CAS番号	濃度
	化審法	安衛法		
1,3-ビス(カルバモイルチオ)-2-(*N,N*-ジメチルアミノ)プロパン塩酸塩（一般名：カルタップ塩酸塩）	(2)-1812（カルタップとして）	2-(5)-96	15263-52-2	30.0%
3-アリルオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-1,1-ジオキシド（一般名：プロベナゾール）	(5)-3433	(5)-3433	27605-76-1	48.0%
界面活性剤	非開示	非開示	非開示	2.0%
鉱物質微粉　等	非開示	非開示	非開示	20.0%

危険有害成分:

化学名または一般名	PRTR法	安衛法 通知対象	毒劇法	CAS番号	濃度
1,3-ビス(カルバモイルチオ)-2-(*N,N*-ジメチルアミノ)プロパン塩酸塩（一般名：カルタップ塩酸塩）	該当*	該当しない	該当	15263-52-2	30.0%
シリカ（結晶性）	該当しない	該当	該当しない	14808-60-7	5.5%以下

＊ カルタップとして該当。

4 応急措置

吸入した場合: 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 物質への曝露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。 呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。 呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行う。 口対口法を用いてはならない。 体を毛布などで覆い、保温する。 直ちに医師の診断/手当てを受けること。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。

皮膚に付着した場合: 直ちに汚染された服と靴を取り除く/脱ぐ。 多量の水と石けんで優しく洗うこと。 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

目に入った場合: 眼を擦ってはならない。 まぶたを開いた状態に保つ。 できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。 被災者の指を喉の奥に入れさせるか、または吐根シロップを説明書に従って飲ませて嘔吐の誘発を試みる。 被災者の意識がない時は何も飲ませてはならない。 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 体を毛布などで覆い、保温する。 直ちに医師の診断/手当てを受けること。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。 呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。 呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行う。 物質への曝露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。

応急措置をする者の保護: 本製品が発がん物質を含むことに注意する。 口対口法を用いてはならない; 逆流防止バルブのついたポケットマスクや他の適切な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。 救助者は、救助の最中、自身の危険にも注意する。 指定された個人用保護具を使用すること。

医師に対する特別な注意事項: 動物実験でＬ－システイン製剤の投与が有効であると報告されている。

5　火災時の措置

消火剤: 初期火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、泡消火剤
大規模火災：散水、水噴霧、泡消火剤

使ってはならない消火剤: 棒状水

火災時特有の危険有害性: 加熱や火災に巻き込まれると分解して、有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）やヒュームを発生するおそれがある。 接触により、皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。 咳、呼吸困難、および吐き気を引き起こすことがある。 接触や吸入の効果は遅れて現れるおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 混触危険物質と接触すると火災や爆発の危険性がある。漏出物や消火水は水系汚染のおそれがある。

特定の消火方法: 消火は有効に行える最も遠い距離から、モニター付ノズル等を活用し無人化を図る。 風上から作業する。 火災発生場所周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。 もし可能であれば、熱にさらされた容器を移動するか、または水で冷却する。 火災をとめられない場合は、火災の拡大・類焼を防止するために噴霧散水により冷却しながら燃焼させたままにする。 消火に用いた水は堰を作って囲い、後で廃棄する。物質がちらばらないようにする。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護: 適切な全身保護衣および空気式呼吸器(SCBA)を着用する。 適切な全身保護衣であっても、熱および有害な蒸気や液体に対し限られた防御しかできない点に留意して消火活動を行うこと。

6　漏出時の措置

人体に対する注意事項: 作業時に保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。 作業時に使用する個人用保護具については「８．暴露防止及び保護措置」を参照。 火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護具を着用する。 全ての方向に適切な距離をとり、漏出区域への立ち入りを禁止する。 適切な換気を行う。 風上から作業する。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱後は顔と手をよく洗うこと。

緊急処置: 防災活動に無関係な全ての人々を風上側に遠ざける。 専門家に相談する。 周辺の居住者に警告する。 水路では航行を遮断する。 大きな安全地帯を設定する。

環境に対する注意事項: 漏出物および漏出物処理時の廃液が、排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所へ流入するのを防ぐ。 環境への放出を避けること。 漏出物を回収すること。

封じ込め及び浄化の方法・機材: 全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。 清浄な火花防止型の道具を使用する。 危険でなければ漏れを止める。 大量の場合、広がらないように堰を作り、後で廃棄する。 飛散したものを掃き集めて密閉式の容器に移す。 適切ならば粉体の飛散防止のためにまず湿らせる。

飛散防止のため微粉の捕集には粉じん防爆タイプの集じん機を使用する。 残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。 廃棄方法は「13.廃棄上の注意」を参照。

二次災害の防止策: 加熱や高温表面との接触を避ける。 適切な消火剤を準備する（「５．火災時の措置」を参照）。 大量の場合、適切な避難距離をとる。 粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防ぐ。

7　取扱い及び保管上の注意

取扱い:

技術的対策: 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 屋外での取扱いはできるだけ風上から行う。 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防止する。 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 火花を発生させない工具を使用すること。 加熱、摩擦、衝撃を与えない。 全ての着火源を取り除く。 静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。 電気的絶縁性が高い物質を設備等に使用しないこと。 粉じん防爆型の電気機器/換気装置/照明設備/装置を使用すること。 不活性ガス（窒素など）置換や爆発放散設備の設置等の粉じん爆発対策を講じること。 上述した対策を講じることが困難な場合はコンサルタント会社等の専門家に相談すること。

局所排気・全体換気: 局所排気、全体換気を行う。（「8. 暴露防止及び保護措置」参照）

注意事項: 設備対策を行い、保護具を着用する。（「8. 暴露防止及び保護措置」参照）

安全取扱い注意事項: 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 取り扱う場所での飲食と喫煙を禁止する。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後に手や顔等を良く洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管:

技術的対策: 熱/火花/裸火/高温表面のような着火源から遠ざけること。－禁煙。 容器を密閉する。

適切な保管条件: 適切な方法で全体をよく換気する。 消火の際の流出物を収容するための用意をする。 施錠して保管すること。 乾燥した場所に保管すること。 直射日光を避ける。 混触危険物質から離して保管する。「１０．安定性及び反応性」を参照。 食料や飼料から離して保管する。 排水管や下水管へのアクセスのない場所で貯蔵する。

安全な容器包装材料: 情報なし

8　暴露防止及び保護措置

設備対策: 製品の取扱いは、密閉された装置、機器を使用する。 局所排気および／または全体換気設備を使用する。 粉じん爆発危険の回避のための設備および操作の管理を行う。「７．取扱い及び保管上の注意」を参照。 取扱場所に、洗眼設備や手や全身の洗浄設備を設ける。 静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。

許容濃度／管理濃度:

化学名または一般名	基準	規制濃度	規制法規等
シリカ（結晶性） - 吸入性粉じん	最大許容濃度	0.03 mg/m^3	日本産業衛生学会
	TWA	0.025 mg/m^3	US. ACGIH Threshold Limit Values

保護具（PPE）:

呼吸器の保護具: 呼吸用保護具は、必ず規格に合致したものを使用する。 換気設備の機能の低下等の緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具: 手の保護具は、必ず規格に合致したものを使用する。不浸透性保護手袋

目の保護具: 眼の保護具は、必ず規格に合致したものを使用する。 安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具: 個人用保護具(PPE)は、必ず規格に合致したものを使用する。 帽子、靴等を含む適切な不浸透性保護衣を着用する。 作業服および作業靴は静電気帯電防止のものを使用する。

衛生対策: 粉じんを発生させないこと。 粉じんを吸入しない。 皮膚および眼との接触を避けること。 作業中は飲食、喫煙をしない。 製品の取扱い後および飲食の前にはよく手や顔を洗浄する。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9 物理的及び化学的性質

物理的状態: 固体

色: 類白色

臭い: データなし

pH: 2.0 (20%懸濁液、20℃)

融点: データなし

沸点: データなし

引火点: データなし

自然発火温度（発火点）: データなし

燃焼限界－上限（%）-: データなし

燃焼限界－下限（%）-: データなし

蒸気圧: データなし

蒸気密度 (Air=1): データなし

密度: 0.60 g/mL（見掛け比重）

溶解度（水): データなし

溶解度（その他): データなし

n-オクタノール／水分配係数: データなし

分解温度: データなし

蒸発率: データなし

10 安定性及び反応性

安定性: 通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。

危険有害反応可能性: 強酸化剤、 強酸、 強塩基 ：火災や爆発の危険
空気と爆発性混合気を形成する。 粉じんの発生と飛散。

避けるべき条件: 裸火、火花、熱、高温表面、静電気放電などのような着火源、 混触危険物質、加熱

混触危険物質: 強酸化剤、強酸、強塩基

危険有害な分解生成物: 一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、塩素化物、リン酸化物、すす

11 有害性情報

製品のデータがない場合は成分のデータを記載しています。

急性毒性:

経口: ラット : LD_{50} 400 mg/kg

経皮: データなし
カルタップ塩酸塩 ラット : LD_{50} > 2,000 mg/kg
プロベナゾール ラット : LD_{50} > 5,000 mg/kg
マウス : LD_{50} > 5,000 mg/kg

吸入: データなし
カルタップ塩酸塩 粉じん／ミスト: ラット : LC_{50} (4 h) 3.5 mg/L
プロベナゾール 粉じん／ミスト: ラット : LC_{50} > 5.03 mg/L

皮膚腐食性/刺激性: 腐食性あり (pH ≦ 2)

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 腐食性あり (pH ≦ 2)

呼吸器感作性/皮膚感作性: データなし
カルタップ塩酸塩 モルモット 皮膚感作性 (ビューラー法) : 感作性なし
プロベナゾール モルモット 皮膚感作性 : 感作性あり
界面活性剤 マウス 皮膚感作性(LLNA 法) : 感作性あり

生殖細胞変異原性:

in vitro: データなし
カルタップ塩酸塩 Ames 試験 (ネズミチフス菌および大腸菌) : 陰性
遺伝子修復試験 (枯草菌) : 陰性
シリカ（結晶性） 染色体異常試験 : 陰性
小核試験 : 陽性

in vivo:	データなし
ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	優性致死試験 (マウス) : 陰性
	染色体異常試験 (マウス) : 陰性
	染色体異常試験 (ラット) : 陰性
シリカ（結晶性）	小核試験 (マウス, 骨髄) : 陰性

発がん性: データなし

ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	ラット 発がん性試験 (混餌) : 発がん性なし
	マウス 発がん性試験 (混餌) : 発がん性なし
シリカ（結晶性）	ラット 発がん性試験 (吸入) : 発がん性あり (肺)
	マウス 発がん性試験 (吸入) : 発がん性あり (肺)

専門家判断:

シリカ（結晶性）

IARC:	1 (ヒトに対して発がん性がある。)
日本産業衛生学会	1 (ヒトに対して発がん性のある物質)
NTP:	ヒト発がん性因子であることが知られている
ACGIH:	Group A2 (ヒトに対して発がん性が疑われる物質)

生殖毒性:

催奇形性: データなし

ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	マウス 催奇形性試験 (経口) : 催奇形性なし
	ラット 催奇形性試験 (経口) : 催奇形性なし
	ハムスター 催奇形性試験 (経口) : 催奇形性なし
	ウサギ 催奇形性試験 (経口) : 催奇形性なし

繁殖性: データなし

ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	ラット 2 世代繁殖毒性試験 (混餌) : 生殖能に影響なし

特定標的臓器毒性（単回暴露）: データなし

ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	ラット 急性毒性試験 (経口) :中枢 神経系
	マウス 急性毒性試験 (経口) :中枢 神経系
シリカ（結晶性）	ヒト（疫学調査）呼吸器系

特定標的臓器毒性（反復暴露）: データなし

ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	マウス 90 日間反復投与毒性試験 (経口) : 特定標的臓器は認められない。
シリカ（結晶性）	ヒト（疫学調査）呼吸器系、腎臓

吸引性呼吸器有害性: データなし

その他の影響: データなし

12 環境影響情報

製品のデータがない場合は成分のデータを記載しています。

生態毒性:

水生生物:

急性毒性:

魚類:	コイ : LC_{50} (96 h) 3.2 mg/L
甲殻類:	オオミジンコ : EC_{50} (48 h) 0.20 mg/L
ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩	オオミジンコ : EC_{50} (48 h) 0.065 mg/L
藻類:	緑藻 : ErC_{50} (0-72 h) 36 mg/L

慢性毒性:

魚類: データなし
甲殻類: データなし
藻類: 緑藻 : NOEC (0-72 h) 2.5 mg/L

その他: データなし
ｶﾙﾀｯﾌﾟ塩酸塩 ドジョウには比較的強い影響を及ぼすので注意すること。
蚕に対して長期間毒性がある。

生分解性: データなし

生物蓄積性: データなし

土壌中の移動性: データなし

オゾン層への有害性: オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書（改訂版）:
リストに掲載なし

13 廃棄上の注意

廃棄方法: 国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

14 輸送上の注意

国際規制:

IMDG:

国連番号	UN3077
品名（正式輸送品目名）	環境有害物質、固体、n.o.s.（ｶﾙﾀｯﾌﾟ･ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ混合物）
国連分類	9
容器等級	III
副次危険性	-
海洋汚染物質	該当
EmS No.	F-A; S-F

IATA:

国連番号	UN3077
品名（正式輸送品目名）	環境有害物質、固体、n.o.s.（ｶﾙﾀｯﾌﾟ･ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ混合物）
国連分類	9
容器等級	III
副次危険性	-

緊急時応急措置指針番号: 171

国内規制: 国内法に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 車輌、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

15　適用法令

化学物質排出把握管理促進法:

特定第一種指定化学物質:	該当しない
第一種指定化学物質:	1,3-ｼﾞｶﾙﾊﾞﾓｲﾙﾁｵ-2-(*N,N*-ｼﾞﾒﾁﾙｱﾐﾉ)-ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ （ｶﾙﾀｯﾌﾟ）
第二種指定化学物質:	該当しない

労働安全衛生法:

通知対象物質 (第 57 条の 2):	シリカ
表示対象物質 (第 57 条):	該当しない
変異原性が認められた届出物質 (第 57 条の 3):	該当しない

毒物及び劇物取締法:

特定毒物:	
法:	該当しない
政令:	該当しない
毒物:	
法:	該当しない
政令:	該当しない
劇物:	
法:	該当しない
政令:	1,3-ｼﾞｶﾙﾊﾞﾓｲﾙﾁｵ-2-(*N,N*-ｼﾞﾒﾁﾙｱﾐﾉ)-ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ （ｶﾙﾀｯﾌﾟ）、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤

消防法:	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律:	法第 2 条第 4 項、施行令第 2 条の 1　産業廃棄物

高圧ガス保安法:

高圧ガス、第２条:	該当しない

化審法:

第１種特定化学物質:	該当しない
第２種特定化学物質:	該当しない
監視化学物質:	該当しない
優先評価化学物質:	該当しない

農薬取締法:	農薬

16　その他の情報

免責条項:	記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。